

【主な医薬品とその作用】

※以下の設問中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「医薬品医療機器等法」と表記する。

問61

かぜ薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 葛根湯かっこんとうは、体力虚弱で、汗が出るもののかぜの初期に適すとされる。
- イ 麻黄湯まおうとうは、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰たんを伴う咳せきや鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息ぜん、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。
- ウ 柴胡桂枝湯さいこけいしとうは、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされる。
- エ 香蘇散こうそさんは、体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症（月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモン変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状及び身体症状）に適すとされる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問62

次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

2錠中	
成分	分量
イブプロフェン	150 mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	60 mg
無水カフェイン	80 mg

この医薬品又は医薬品の成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 一般用医薬品のイブプロフェン製剤は、15歳未満の小児に対して、いかなる場合も使用してはならない。
- イ 一般用医薬品のイブプロフェン製剤は、出産予定日12週以内の妊婦は服用しないこととされている。
- ウ アリルイソプロピルアセチル尿素は、中枢神経系を刺激して頭をすっきりさせたり、疲労感・倦怠感を和らげたりすることを目的として配合されている。
- エ 解熱鎮痛薬は、胃への悪影響を軽減するため、なるべく空腹時に服用することとなっている場合が多い。

1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

【主な医薬品とその作用】

問63

かぜ薬の配合成分に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

かぜ薬とは、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称である。その中には、鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡張する成分として(ア)、咳を抑える成分として(イ)、くしゃみや鼻汁を抑える成分として(ウ)が配合されているものがある。

	ア	イ	ウ
1	カルボシステイン	イソプロピルアンチピリン	エテンザミド
2	カルボシステイン	ノスカピン	エテンザミド
3	メチルエフェドリン塩酸塩	イソプロピルアンチピリン	エテンザミド
4	メチルエフェドリン塩酸塩	イソプロピルアンチピリン	ヨウ化イソプロパミド
5	メチルエフェドリン塩酸塩	ノスカピン	ヨウ化イソプロパミド

問64

鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 芍薬甘草湯は、体力中等度以下で手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するものの頭痛、頭痛に伴う吐きけ・嘔吐、しゃっくりに適すとされる。
- イ 疎経活血湯は、体力中等度で、痛みがあり、ときにしびれがあるものの関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされる。
- ウ 麻杏薏甘湯は、体力中等度なものの関節痛、神経痛、筋肉痛、いぼ、手足のあれ(手足の湿疹・皮膚炎)に適すとされる。
- エ 釣藤散は、体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるものに適すとされる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問65

次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

1包(0.96g)中	
成分	分量
グアイフェネシン	60 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	8 mg
d 1-メチルエフェドリン塩酸塩	20 mg
アセトアミノフェン	300 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	2.5 mg
無水カフェイン	25 mg
リボフラビン	4 mg

この医薬品の成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア ジヒドロコデインリン酸塩は、依存性がある成分である。
- イ アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- ウ クロルフェニラミンマレイン酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを促進する。
- エ リボフラビンは、制酸作用により解熱鎮痛成分による胃腸障害を軽減する。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問66

一般用医薬品に含まれる有効成分等とアルコールとの相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 次硝酸ビスマスは、アルコールと一緒に摂取されると、循環血液中へのビスマスの移行が高まって記憶力減退等の精神神経症状を生じるおそれがある。

イ アルコールは、医薬品成分の吸収や代謝に影響を与えるため、かぜ薬の服用期間中は飲酒を控える必要がある。

ウ ジフェンヒドラミン塩酸塩は、アルコールとともに服用すると、薬効が減弱されるおそれがある。

エ 生薬成分のみからなる鎮静薬や漢方処方製剤の場合は、飲酒を避けることとはなっていない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問67

解熱鎮痛薬に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

解熱鎮痛成分により(ア)におけるプロスタグランジンの産生が(イ)されると、腎血流量が(ウ)するため、腎機能に障害があると、その症状を悪化させる可能性がある。

	ア	イ	ウ
1	末梢	促進	減少
2	末梢	抑制	減少
3	末梢	抑制	増加
4	中枢	促進	増加
5	中枢	抑制	減少

【主な医薬品とその作用】

問68

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）として使用されるジフェニドール塩酸塩に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 内耳への血流を改善する作用を示す。
- 2 内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用を示す。
- 3 緑内障の診断を受けた人が使用すると、その症状を悪化させるおそれがある。
- 4 末梢組織におけるプロスタグランジンの産生を促進し、制吐作用を示す。

問69

小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）及びその配合生薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 柴胡加竜骨牡蛎湯^{さいこかりゅうこつぼれいとう}を小児の夜泣きに用いる場合は、症状の原因となる体質の改善を主眼として
いるため、症状の改善がみられるまで比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用する必要がある。
- イ カンゾウを含有する漢方処方製剤を乳幼児に使用する場合、体格の個人差から体重当たりのグリ
チルリチン酸の摂取量が多くなることがあるので注意する必要がある。
- ウ 小建中湯^{しょうけんちゅうとう}は、体力中等度をめやすとして幅広く用いることができ、やや消化器が弱く、神経
がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの小児虚弱体質、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、
小児夜尿症、夜なきに適すとされる。
- エ ゴオウ、ジャコウは、いずれも動物の分泌物を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮め、また、血
液の循環を促す作用等を期待して配合される。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【主な医薬品とその作用】

問70

呼吸器官に作用する一般用医薬品に配合される成分とその主な作用との関係について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

	成分	主な作用
ア	ブロムヘキシシン塩酸塩	－ 去痰 ^{たん} 作用
イ	デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	－ 抗炎症作用
ウ	カルビノキサミンマレイン酸塩	－ 抗ヒスタミン作用
エ	トラネキサム酸	－ 鎮咳 ^{がい} 作用

1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問71

胃腸鎮痛鎮痙^{けい}薬に配合される成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア ブチルスコポラミン臭化物が配合された医薬品を服用した後は、乗り物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。

イ パパベリン塩酸塩は、自律神経系を介した作用ではないが、眼圧を上昇させる作用を示すことが知られている。

ウ アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用を避ける必要がある。

エ オキセサゼインは、局所麻酔作用により鎮痛効果を示すが、胃液分泌を抑える作用はない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問 7 2

眠気を促す薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 小児や若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
- イ ブロモバレリル尿素は、脳内におけるヒスタミン刺激を低下させることにより眠気を促す。
- ウ ジフェンヒドラミン塩酸塩は、抗ヒスタミン成分の中でも特に中枢作用が弱い。
- エ ホップは、ヨーロッパ南部から西アジアを原産とするアサ科のホップ *Humulus lupulus* L. の成熟した球果状の果穂が薬用部位となり、神経の興奮・緊張緩和を期待して配合される。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

問 7 3

口腔^{くわう}咽喉薬及びうがい薬^{そう}(含嗽薬)の一般的な注意事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア ドロップ剤は、有効成分が口腔^{くわう}内や咽頭部に行き渡るよう、噛み砕いて飲み込むのがよい。
- イ 一般用医薬品の口腔^{くわう}咽喉薬は、局所的な作用を目的とする医薬品であり、全身的な影響を生じることはない。
- ウ 口腔^{くわう}内に噴射して使用する外用液剤は、息を吸いながら噴射することが望ましい。
- エ 用時希釈して使用する含嗽^{そう}薬は、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。

- | | ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

【主な医薬品とその作用】

問 7 4

瀉下薬の配合成分に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ピコスルファートナトリウムは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、^{ふん}糞便のかさを増すとともに^{ふん}糞便を柔らかくする。
- 2 センノシドは、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激することで^{しゃ}瀉下作用をもたらすと考えられている。
- 3 水酸化マグネシウム等の無機塩類は、腸内容物の浸透圧を高めることで^{ふん}糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。
- 4 マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって排便を促すとされている。

問 7 5

貧血及び貧血用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 鉄分は、赤血球が酸素を合成する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- イ 体の成長が著しい年長乳児や幼児、月経血損失のある女性、鉄要求量の増加する妊婦・母乳を与える女性では、鉄欠乏状態を生じやすい。
- ウ 鉄製剤は、消化器系への副作用を軽減するために、食後に服用することが望ましい。
- エ 鉄製剤は、服用の前後 30 分に緑茶や柿を摂取すると、吸収が悪くなることもある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問76

止瀉薬^{しゃ}の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 次没^{もつしょくし}食子酸ビスマスは、収斂^{れん}作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つとされるため、細菌性の下痢や食中毒のときに使用するとよい。

イ 木クレオソート^{もく}は、過剰な腸管の運動を正常化し、あわせて水分や電解質の分泌も抑える止瀉^{しゃ}作用がある。

ウ タンニン酸ベルベリンは、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。

エ ロペラミド塩酸塩は、中枢神経系を抑制する作用があり、副作用としてめまいや眠気が現れることがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問77

以下の駆虫薬に用いられる成分のうち、^{ぎょう}蠕虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされるものとして正しいものを一つ選びなさい。

- 1 サントニン
- 2 カイニン酸
- 3 ピペラジンリン酸塩
- 4 パモ酸ピルビニウム
- 5 マクリ

【主な医薬品とその作用】

問78

強心薬に配合される生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア ジンコウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

イ 1日用量中センソ1mgを超えて含有する医薬品は、劇薬に指定されている。

ウ ロクジョウは、強心作用のほか、強壯、血行促進の作用があるとされる。

エ インヨウカクは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高め、意識をはっきりさせる作用がある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【主な医薬品とその作用】

問79

血中コレステロール及び高コレステロール改善薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア コレステロールは、血液中では血漿^{しょう}タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。
- イ 高密度リポタンパク質（HDL）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶ役割を担う。
- ウ 医療機関で測定する検査値として、低密度リポタンパク質（LDL）が140mg/dL以上、高密度リポタンパク質（HDL）が40mg/dL未満、中性脂肪が150mg/dL以上のすべてにあてはまる状態が、脂質異常症とされる基準である。
- エ パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問80

次の表は、ある外用痔疾用薬の注入軟膏に含まれている成分の一覧である。

1g 中	
成分	分量
リドカイン	30 mg
グリチルレチン酸	15 mg
アラントイン	10 mg
トコフェロール酢酸エステル	25 mg

この医薬品の成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア リドカインは、局所の感染を防止する殺菌消毒成分として配合されている。
- イ グリチルレチン酸が分解されるとグリチルリチン酸となり、抗炎症作用を示す。
- ウ アラントインは、局所に冷感刺激を生じさせ、痒みを抑えることを目的として配合されている。
- エ トコフェロール酢酸エステルは、内用薬ではコレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えることから血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の改善薬の成分として用いられる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 1

婦人薬の代表的な生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア サフランは、主に胃腸症状に対する効果や利尿作用を期待して用いられる。

イ センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

ウ コウブシは、キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬である。

エ ジオウは、ゴマノハグサ科のアカヤジオウ等の根又はそれを蒸したものを基原とする生薬である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 8 2

婦人薬に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 エチニルエストラジオールは、人工的に合成された女性ホルモンの一種であり、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- 2 桃核承気湯とうかくじょうきとうは、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい。
- 3 血行を促進する作用を期待して、ビタミンEが配合されていることがある。
- 4 桂枝茯苓丸けいしぶくりょうがんは、体力中等度以下で、冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸き、息切れ、ときにねあせ、頭部の発汗、口の渇きがあるものの更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸き、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎に適すとされる。

【主な医薬品とその作用】

問 8 3

内服アレルギー用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア メチルエフェドリン塩酸塩は、長期間にわたって連用すると、薬物依存につながる可能性がある。

イ トリプロリジン塩酸塩は、抗コリン作用を有するが、比較的その作用が緩和であるため、緑内障の診断を受けた人に対しても使用することができる。

ウ ケトチフェンフマル酸塩が配合された内服薬を服用した後は、乗り物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。

エ プソイドエフェドリン塩酸塩は、アドレナリン作動薬の中でも中枢神経系に対する作用が比較的強く、不眠や神経過敏の副作用が現れることがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 4

内服アレルギー用薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア フェニレフリン塩酸塩は副交感神経系を刺激して、鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。

イ 辛夷清肺湯^{しんいせいはいとう}は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰^{たん}を伴う咳^{せき}や鼻水が出るものの気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適する。

ウ サイシンは鎮痛、鎮咳^{がい}、利尿の作用を有するとされる生薬で、鼻閉への効果を期待して用いられる。

エ アレルギー症状に対する医薬品の使用は基本的に対症療法であり、症状軽減のためには日頃からアレルゲンの除去・回避を行うことが根源的な対処として重要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 5

鼻炎用点鼻薬に配合される成分とその目的とする作用に関する以下の関係の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

	成分	目的とする作用
ア	クロモグリク酸ナトリウム	肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、鼻アレルギー症状を緩和する作用
イ	テトラヒドロゾリン塩酸塩	神経伝導を可逆的に遮断し、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み ^{かゆ} を抑える作用
ウ	セチルピリジニウム塩化物	真菌に対する殺菌消毒作用
エ	ナファゾリン塩酸塩	鼻粘膜の充血や腫れを和らげる作用

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 6

婦人薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア かみしょうようさん 加味逍遙散は、体力虚弱で、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸^きなどを訴えるものの月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害（貧血、疲労倦怠^{けん}、めまい、むくみ）、めまい・立ちくらみ、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ、耳鳴りに適する。
- イ しもつとう 四物湯は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適する。
- ウ とうきしゃくやくさん 当归芍薬散は、体力中等度以下で、のぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症に適する。
- エ ごしゃくさん 五積散は、体力中等度又はやや虚弱で、冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適する。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 7

点眼薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 点眼後に目頭を押さえると、薬液が結膜囊^{のう}内に行き渡らなくなり、効果が大きく減弱する原因となる。
- イ 点眼薬は目の疲れや痒み^{かゆ}といった症状の緩和を目的とした外用薬で、全身性の副作用が現れることはない。
- ウ 1滴の薬液の量は約50 μ Lであるのに対して、結膜囊^{のう}の容積は30 μ L程度とされており、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではない。
- エ ソフトコンタクトレンズを装着したまま点眼すると、レンズに防腐剤などの配合成分が吸着し、角膜に障害を引き起こす場合がある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 8 8

点眼薬の配合成分に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを(ア)作用を示し、(イ)におけるアセチルコリンの働きを(ウ)ことで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

	ア	イ	ウ
1	促進する	毛様体	助ける
2	促進する	水晶体	妨げる
3	促進する	毛様体	妨げる
4	抑制する	毛様体	助ける
5	抑制する	水晶体	助ける

【主な医薬品とその作用】

問 8 9

点眼薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア ホウ酸は、結膜^{のう}囊の洗浄・消毒だけではなく、点眼薬の防腐剤として配合されていることがある。

イ ビタミンAは、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整を改善する効果を期待して用いられる。

ウ スルファメトキサゾールは、ウイルス感染による結膜炎の症状の改善を目的として用いられる。

エ コンドロイチン硫酸ナトリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問90

皮膚に用いる薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア プレドニゾロン酢酸エステルは、炎症を抑える作用を示し、特に細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染が原因の痒み^{かゆ}や発赤の皮膚症状に適する。

イ ケトプロフェンが配合された外皮用薬は、使用中及び使用後しばらくの間は、紫外線が塗布部に当たることで光線過敏症を生じるおそれがある。

ウ スルコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させたりすることにより、その増殖を抑える。

エ 温感刺激成分を主薬とする貼付剤は、貼付部位を温めると痛み^{いたみ}の原因となるため、入浴前後の使用は避けるべきである。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問91

皮膚に用いる薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 一般的に、湿潤している患部には液剤が適し、皮膚が厚く角質化している患部には軟膏が適すとされる。

イ 貼付剤は、一般的に、同じ部位に期間を空けず貼付すると、かぶれを生じやすい。

ウ 患部やその周辺に汗や汚れ等が付着した状態で貼付剤を使用すると、有効成分の浸透性が低下するおそれがある。

エ 塗り薬を塗布したあとは、手についた薬剤を十分に洗い流すべきである。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 9 2

皮膚及びきず口等に用いる薬並びにその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 創傷部をより早く治癒させるには、人間の外皮表面に存在する皮膚常在菌を繰り返し殺菌消毒することが望ましい。

イ サリチル酸は角質軟化作用を示すほか、抗菌、抗真菌、抗炎症作用も期待され、にきび用薬に配合されている場合がある。

ウ イブプロフェンピコノールは、イブプロフェンの誘導体であり、主に鎮痛作用を期待され、外皮用薬に用いられる。

エ 化膿^{のう}性皮膚疾患用薬を漫然と使用すると、連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿^{のう}菌が耐性を獲得するおそれがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【主な医薬品とその作用】

問93

歯痛・歯槽膿漏^{のう}薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 歯痛薬は、歯の齲蝕^{うしょく}（むし歯）を修復することはない。

イ カルバゾクロムは、細菌の殺菌消毒作用を期待して配合されている場合がある。

ウ 内服で用いる歯槽膿漏^{のう}薬には、かぜ薬と同じ又は同種の成分が配合されていることがある。

エ カミツレは、齲蝕^{うしょく}により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問94

禁煙補助剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア ニコチン置換療法は、ニコチンの摂取方法を喫煙以外に換えて離脱症状の軽減を図るものであり、喫煙量の減少に伴い医薬品からのニコチン摂取量を徐々に増加させていくのが特徴である。

イ ニコチンを有効成分とする^{そしゃく}咀^{くう}嚼^か剤は、口腔粘膜からの吸収が十分に行われるよう、菓子のガムのように噛み、唾液をより多く分泌させることが望ましい。

ウ 母乳を与える女性では、摂取されたニコチンにより乳児に影響が生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

エ 一般用医薬品として承認されている禁煙補助剤は、^{そしゃく}咀^{くう}嚼^か剤のほかに、1日1回皮膚に貼付するパッチ製剤がある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問 9 5

滋養強壯保健薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア ビタミンB 1は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。

イ ビタミンCは、体内の脂質を酸化から守る作用（抗酸化作用）を有する栄養素である。

ウ ビタミンB 2主薬製剤は、ピリドキシン塩酸塩又はピリドキサルリン酸エステルが主薬として配合された製剤である。

エ ビタミンDの過剰症としては低カルシウム血症があり、便秘や吐きけ、嘔吐^{おう}、腹痛が初期症状として現れることがある。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問 9 6

漢方処方製剤に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。なお、同じ記号の()内には同じ字句が入ります。

漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「(ア)」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。一般用に用いることが出来る漢方処方は、現在(イ)処方程度であるが、平成20年の厚生労働省医薬食品局審査管理課長通知により、医薬品の効能効果の表現に、この「(ア)」の考え方を盛り込んだ見直しが行われた。この見直しでは、一般用であることを考慮して、「(ア)」という漢方の専門用語を使用することを避け、「しぼり」(使用制限)として記載が行われている。例えば、「(ウ)」の病態は「疲れやすく冷えやすいものの」などの寒性の症状を示す表現で示されている。

	ア	イ	ウ
1	証	100	虚
2	証	100	陰
3	証	300	陰
4	方	100	虚
5	方	300	陰

【主な医薬品とその作用】

問 9 7

生薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 同じ生薬成分又は同種の作用を示す生薬成分を含有する医薬品、医薬部外品等が併用された場合は、作用が強くなり、副作用が生じやすくなるおそれがある。

イ 生薬製剤はすべからず作用が緩やかで、副作用が少ない。

ウ 生薬は、動植物の薬用とする部分、細胞内容物、分泌物、抽出物又は鉱物などであり、薬用動植物・薬用鉱物等の名称が生薬名と混同されて用いられることがあるが、その生薬の素材となる動植物・鉱物等とは明確に区別される必要がある。

エ 生薬成分は、医薬品的な効能効果が標榜^{ぼう}又は暗示されていなければ、食品として流通可能なものがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

【主な医薬品とその作用】

問 9 8

消毒薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に殺菌消毒作用を示し、主に人体の消毒に用いられる。
- イ クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対しては広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- ウ エタノールは、手指や皮膚、創傷面の消毒に加え、粘膜面や目の周りへの使用にも適する。
- エ ヨードチンキは、ヨウ素をポリビニルピロリドン（PVP）と呼ばれる担体に結合させて水溶性とし、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すよう工夫されたものである。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 9 9

殺虫剤及びその配合成分に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- フェノトリンは、ピレスロイド系殺虫成分で、フェノトリンが配合されたシャンプーはヒトに寄生するシラミの駆除に用いられる。
- カーバメイト系殺虫成分は、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合し、アセチルコリンエステラーゼを阻害することによって殺虫作用を示す。
- 有機塩素系殺虫成分は、日本でかつて広く利用され、感染症の撲滅に大きな効果を上げた一方、残留性や体内蓄積性の問題から、現在はオルトジクロロベンゼンがウジ、ボウフラの防除の目的で使用されるのみとなっている。
- ヒトがジクロロボスに高濃度又は多量に曝露^{ばく}した場合、神経の異常な興奮が起こり、縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺^ひ等の症状が現れるおそれがある。

【主な医薬品とその作用】

問100

検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 検体中に検出反応が起こるための最低限の濃度以上の対象物質が存在しているにもかかわらず、検査結果が陽性にならず陰性となった場合を偽陽性という。
- イ 血液は、一般用検査薬の検体には用いられない。
- ウ 検出反応が起こるための最低限の濃度を、検出感度又は検出限界という。
- エ 現在は悪性腫瘍や心筋梗塞といった重大な疾患の診断も、一般用検査薬で行うことができる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【薬事関係法規・制度】

問 1 0 1

医薬品医療機器等法に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 医薬品医療機器等法第1条において、医薬品、医薬部外品、化粧品、毒物、劇物、医療機器及び再生医療等製品の品質、有効性及び安全性の確保並びにこれらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止のために必要な規制を行うことを目的と定めている。

イ この法律は、医療上特にその必要性が高い医薬品、医療機器及び再生医療等製品の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上を図ることを目的の一つとしている。

ウ 医薬関係者は、医薬品等の有効性及び安全性その他これらの適正な使用に関する知識と理解を深めるとともに、これらの使用の対象者及びこれらを購入し、又は譲り受けようとする者に対し、これらの適正な使用に関する事項について、正確かつ適切な情報の提供に努めなければならない。

エ 国民は、医薬品等を適正に使用するとともに、これらの有効性及び安全性に関する知識と理解を深めるよう努めなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【薬事関係法規・制度】

問102

医薬品の定義に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 日本薬局方に収められている物は、すべて医薬品である。
- イ 動物の疾病の治療に使用される物（ただし、機械器具等、医薬部外品、再生医療等製品を除く。）は、医薬品に含まれない。
- ウ 「やせ薬」を標^{ぼう}榜したもの、は、医薬品に含まれる。
- エ 医薬品医療機器等法第14条又は第19条の2において、医薬品は、品目ごとに、品質、有効性及び安全性について審査等を受け、その製造販売について厚生労働大臣の承認を受けたものでなければならないとされている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問103

毒薬又は劇薬に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 現在のところ、毒薬で、一般用医薬品のものはない。
- 2 劇薬を収める直接の容器又は被包には、赤地に白枠、白字をもって、当該医薬品の品名及び「劇」の文字が記載されていなければならない。
- 3 劇薬を、不当使用等が懸念される者に交付することは禁止されている。
- 4 店舗管理者が薬剤師である店舗販売業者は、劇薬を開封して販売することができる。

【薬事関係法規・制度】

問104

以下の事項のうち、一般用医薬品の直接の容器又は被包に記載されていなければならないものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 製造番号及び製造年月
- イ 重量、容量又は個数等の内容量
- ウ 効能又は効果
- エ 製造販売業者の氏名又は名称及び住所

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問105

以下の効能効果のうち、化粧品において表示・^{ぼう}標榜することが認められているものとして、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 頭皮、毛髪を清浄にする。
- 2 肌のキメを整える。
- 3 乾燥による小ジワを目立たなくする。
- 4 発毛を促進する。

【薬事関係法規・制度】

問106

機能性表示食品に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

機能性表示食品とは、(ア)の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示し、販売前に(イ)及び機能性の根拠に関する情報などが消費者庁長官に届け出られたものである。機能性表示食品は、特定の保健の目的が期待できるという食品の機能性を表示することができるが、消費者庁長官の個別の許可を受けたものではないという点で(ウ)とは異なる。

	ア	イ	ウ
1	登録認証機関	有効性	栄養機能食品
2	登録認証機関	有効性	特定保健用食品
3	事業者	有効性	特定保健用食品
4	事業者	安全性	栄養機能食品
5	事業者	安全性	特定保健用食品

問107

以下の保健機能成分のうち、特定保健用食品において、これまでに「血糖値が気になる方に適する」等の血糖値関係の表示が認められたものとして、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 難消化性デキストリン
- 2 フラクトオリゴ糖
- 3 小麦アルブミン
- 4 グアバ葉ポリフェノール
- 5 L-アラビノース

【薬事関係法規・制度】

問108

栄養機能食品における栄養成分と栄養機能表示に関する以下の関係の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

	栄養成分	栄養機能表示
ア	銅	赤血球の形成を助ける栄養素です。
イ	マグネシウム	骨の形成や歯の形成に必要な栄養素です。
ウ	β -カロテン	体内の脂質を酸化から守り、細胞の健康維持を助ける栄養素です。
エ	亜鉛	たんぱく質・核酸の代謝に関与して、健康の維持に役立つ栄養素です。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【薬事関係法規・制度】

問 109

薬局に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 薬局開設者は、薬剤師でなければならない。
- イ 薬局では、管理者である薬剤師の監督のもとであれば、全ての一般用医薬品の販売等に関して、登録販売者が購入者等への情報提供や相談対応を行うことができる。
- ウ 薬局の管理者は、その薬局の所在地の都道府県知事（その所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）の許可を受けた場合を除き、その薬局以外の場所で業として薬局の管理その他薬事に関する実務に従事する者であってはならない。
- エ 地域連携薬局とは、医師若しくは歯科医師又は薬剤師が診療又は調剤に従事する他の医療提供施設と連携し、地域における薬剤及び医薬品の適正な使用の推進及び効率的な提供に必要な情報の提供及び薬学的知見に基づく指導を実施するために一定の必要な機能を有し、その所在地の都道府県知事の認定を受けた薬局である。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【薬事関係法規・制度】

問 1 1 0

店舗販売業に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 店舗販売業の許可は、5年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。
- イ 要指導医薬品又は一般用医薬品以外の医薬品の販売は認められていない。
- ウ 店舗管理者は、店舗に関する必要な業務を遂行し、必要な事項を遵守するために必要な能力及び経験を有する者でなければならない。
- エ 第一類医薬品を販売し、授与する店舗の店舗管理者を薬剤師とすることができない場合には、一定の要件を満たした登録販売者を店舗管理者にすることができるが、この場合には、店舗管理者を補佐する薬剤師を置かなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【薬事関係法規・制度】

問 1 1 1

配置販売業に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 配置販売業に係る区域を管理する者は、第一類医薬品を販売し、授与する区域においては薬剤師、第二類医薬品又は第三類医薬品を販売し、授与する区域においては薬剤師又は登録販売者でなければならない。
- イ 配置販売業の許可を受けようとする者は、一般用医薬品を配置しようとする区域にかかわらず、申請者の住所地（法人にあつては、主たる事務所の所在地）の都道府県知事から許可を受けなければならない。
- ウ 配置販売業者は、配置以外の方法により医薬品を販売等してはならない。
- エ 配置員は、配置販売業者の氏名及び住所、配置販売に従事する者の氏名及び住所並びに区域及びその期間を、配置販売に従事している区域の都道府県知事に対し、配置販売に従事した日から30日以内に届け出なければならない。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問 1 1 2

以下のうち、配置販売業者が第一類医薬品を配置したときに、書面に記載し、2年間保存しなければならない事項として、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 品名
- 2 数量
- 3 配置した日時
- 4 配置した場所
- 5 医薬品の購入者等が情報提供の内容を理解したことの確認の結果

【薬事関係法規・制度】

問 1 1 3

要指導医薬品又は一般用医薬品のリスク区分に応じた販売方法等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 薬局開設者又は店舗販売業者は、当該薬局又は店舗に貯蔵し、又は陳列している要指導医薬品を特定販売により販売することができる。
- イ 第一類医薬品を使用しようとする者がお薬手帳を所持する場合は、必要に応じ、当該お薬手帳を活用した情報の提供を行い、一般用医薬品についても記録することが重要である。
- ウ 指定第二类医薬品については、薬剤師又は登録販売者による積極的な情報提供の機会が確保されるよう、陳列方法を工夫する等の対応が求められる。
- エ 第三類医薬品については、医薬品医療機器等法での規定は特にはないが、購入者から質問等がなくても、薬剤師又は登録販売者から情報提供を行うことが望ましい。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【薬事関係法規・制度】

問 1 1 4

薬局及び店舗販売業における医薬品の陳列方法に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 要指導医薬品及び一般用医薬品を混在しないように陳列しなければならない。
- イ 医薬品と医薬部外品は、区別して陳列しなければならない。
- ウ 要指導医薬品は、鍵をかけた陳列設備に陳列する場合、要指導医薬品陳列区画（薬局等構造設備規則に規定する要指導医薬品陳列区画をいう。）の内部の陳列設備に陳列しなくてもよい。
- エ 指定第二类医薬品は、原則として、薬局等構造設備規則に規定する「情報提供を行うための設備」から1.2メートル以内の範囲に陳列しなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 1 1 5

以下のうち、リスク区分に応じた情報提供又は相談対応の実効性を高めるため、店舗販売業者が店舗の見やすい位置に掲示板で掲示しなければならない事項として、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 店舗管理者の氏名
- 2 勤務する薬剤師の氏名及び担当業務
- 3 相談時及び緊急時の電話番号その他連絡先
- 4 要指導医薬品、第一類医薬品、第二类医薬品及び第三類医薬品の表示に関する解説
- 5 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する解説

【薬事関係法規・制度】

問 1 1 6

店舗販売業者の遵守事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 店舗において医薬品の販売等に従事する薬剤師、登録販売者又は一般従事者であることが容易に判別できるよう、店舗販売業者はその店舗に勤務する者に名札をつけさせなければならない。
- イ 濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定するものに該当する医薬品を購入し、又は譲り受けようとする者が若年者である場合は、当該者の氏名及び年齢を確認する必要がある。
- ウ 販売しようとする医薬品について広告するときは、当該医薬品を購入した者による当該医薬品に関する意見その他医薬品の使用が不適正なものとなるおそれのある事項を表示してはならない。
- エ 販売しようとする医薬品について広告するときは、医薬品の購入、譲受けの履歴、ホームページの利用の履歴等の情報に基づき、自動的に特定の医薬品の購入、譲受けを勧誘する方法などの医薬品の使用が不適正なものとなるおそれのある方法により医薬品を広告してはならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【薬事関係法規・制度】

問 1 1 7

医薬品医療機器等法第68条に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

何人も、第14条第1項、第23条の2の5第1項若しくは第23条の2の23第1項に規定する医薬品若しくは医療機器又は(ア)であつて、まだ第14条第1項、第19条の2第1項、第23条の2の5第1項、第23条の2の17第1項、第23条の25第1項若しくは第23条の37第1項の承認又は第23条の2の23第1項の認証を受けていないものについて、その名称、(イ)、効能、効果又は(ウ)に関する広告をしてはならない。

	ア	イ	ウ
1	化粧品	製造方法	性状
2	化粧品	成分	性能
3	再生医療等製品	製造方法	性能
4	再生医療等製品	成分	性状
5	医薬部外品	製造方法	性能

問 1 1 8

医薬品等の広告に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 一般用医薬品は、医師による診断・治療によらなければ一般に治癒が期待できない疾患（がん、糖尿病、心臓病等）について、自己治療が可能であるかのような広告表現は認められない。
- 2 漢方処方製剤を広告する場合、その効能効果は、配合されている個々の生薬成分による作用であるため、構成生薬の作用を個別に挙げて説明することができる。
- 3 医薬品でない製品について医薬品的な効能効果があるように見せかけ、一般の生活者に誤認を与えるおそれがある場合には、必要な承認等を受けていない医薬品の広告とみなされることがあり、その場合には医薬品医療機器等法の違反となる。
- 4 「天然成分を使用しているので副作用がない」「いくら飲んでも副作用がない」といった事実と反する広告表現は、過度の消費や乱用を助長するおそれがあるだけでなく、虚偽誇大な広告にも該当する。

【薬事関係法規・制度】

問 1 1 9

医薬品の販売方法に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア 医薬品を懸賞や景品として授与することは、原則として認められていない。

イ 購入者の利便性のため、異なる複数の医薬品を組み合わせで販売又は授与する際には、組み合わせた医薬品について、購入者等に対して情報提供を十分に行える程度の範囲内であって、かつ、組み合わせることに合理性が認められるものでなければならない。

ウ 店舗販売業者は、許可を受けた店舗以外の場所においても医薬品を貯蔵又は陳列し、そこを拠点として販売等を行うことができる。

エ 配置販売業において、配置員は、購入者が医薬品を使用する前に現金売りを行うことができる。

1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【薬事関係法規・制度】

問 1 2 0

行政庁の薬事に関する監視指導又は処分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

- ア 厚生労働大臣、都道府県知事、保健所を設置する市の市長及び特別区の区長は、その職員のうちから薬事監視員を命じ、薬事監視員が監視指導を行っている。
- イ 都道府県知事（薬局の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）は、薬局開設者に対して、その構造設備によって不良医薬品を生じるおそれがある場合においては、その構造設備の改善を命じ、又はその改善がなされるまでの間当該施設の全部若しくは一部の使用を禁止することができる。
- ウ 都道府県知事は、配置販売業の配置員が、その業務に関し、法又はこれに基づく命令に違反する行為があったときは、その配置販売業者に対して、期間を定めてその配置員による配置販売の業務の停止を命ずることができるが、その配置員に対しては、期間を定めて業務の停止を命ずることはできない。
- エ 行政庁による命令がなくても、医薬品等の製造販売業者等が、その医薬品等の使用によって保健衛生上の危害が発生し、又は拡大するおそれがあることを知ったときは、これを防止するために廃棄、回収、販売の停止、情報の提供その他必要な措置を講じなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正